

2015年9月10日

## 「NTT コミュニケーションズ API ゲートウェイ」において、 API へのアクセスを安全かつ柔軟にコントロールできる 権限管理機能を提供

～API 単位、IP アドレス単位、任意のデータ単位など、きめ細かいアクセス制御が可能に～

NTT コミュニケーションズ(略称: NTT Com)は、NTT Com の各種 ICT サービス<sup>\*1</sup>における契約・請求・故障などの情報<sup>\*2</sup>の閲覧、サービスの申し込みや設定変更などを、当該サービスを利用するお客さまのシステムから直接かつ容易に操作・実現する「NTT コミュニケーションズ API<sup>\*3</sup> ゲートウェイ」(以下:NTT Com API Gateway)を、2014年12月より提供しています。

NTT Com はこのたび、NTT Com API Gateway に、お客さま社内の IT 管理者が、より安全かつ柔軟に API へのアクセスをコントロールできる権限管理機能を追加し、2015年9月10日より提供を開始します。これにより、お客さま個々の業務要件を満たす柔軟なアクセス制御ができるようになります。

### 1. 背景・目的

クラウドサービスや Web サービスの提供事業者のみならず、様々な企業、あるいは官公庁や地方自治体において、自社・組織が提供するサービスやシステムの API を公開する動きが加速しています。

API を利用すると、人手を介さず自動的に、自社サービスやシステムを他社のサービスやシステムと連携させることができるため、異なるサービス間の連携が格段に容易になります。API を活用した新しいサービスやビジネスモデルが次々と生み出されている現在の潮流は「API エコシステム」とも呼ばれ、今後さらに加速していくことが予想されます。

NTT Com は、当社サービスの API をもっと活用したいというお客さまのニーズを踏まえ、このたび機能強化を行いました。

### 2. 今回提供する権限管理機能について

権限管理機能を利用することで、お客さまご自身で、API を利用するユーザー・グループを作成・管理し、必要なアクセス権限を簡単に設定できるようになりました。

#### ① ユーザー・グループの作成・管理

API を利用するユーザー・グループを作成し管理することができます。

#### ② アクセス権限の付与・管理

ユーザー・グループ作成・管理機能で作成したグループに対して、それぞれのグループごとにホワイトリスト方式で API へのアクセス許可を設定し、管理することができます。

また、利用する API や IP アドレス、さらに契約情報など任意のデータ単位で設定ができます。

権限管理機能を活用した利用シーンは以下を参照ください。

[別紙] 利用シーン①

[別紙] 利用シーン②

また、NTT Com API Gateway および権限管理機能の詳細については、「[NTT コミュニケーションズ API ゲートウェイ デベロッパーポータル](#)」をご覧ください。

### 3. 今後の展開

NTT Com が提供する API の呼び出しを容易にする SDK<sup>\*4</sup> の提供や、API の入出力をオンラインで確認できる API コンソールなど、API 利用ツールを充実化させていきます。

また、「NTT コミュニケーションズ API ゲートウェイ デベロッパーポータル」や「Enterprise APIs Hack-Night」などの技術勉強会を通じて、お客さまの自社システムと連携させた API 利用に関するベストプラクティスやお客さまビジネスにおけるユースケースの紹介などの情報発信を強化していきます。

\*1: 対象サービスは、ネットワークサービス(Arcstar Universal One/Arcstar Universal One Virtual/Arcstar Universal One モバイルグローバル M2M)、クラウドサービス(Enterprise Cloud/Cloud<sup>®</sup>)、コロケーションサービス(Nexcenter)、アプリケーションサービス(Arcstar UCaaS/Arcstar SIP Trunking/Enterprise Mail)です。API を提供するサービス、および各サービスの機能は順次拡充していく予定です。詳細はお問い合わせください。

\*2: 申し込み、申し込みの進捗、工事情報、運用状況、請求情報など。サービス毎に対応するビジネスプロセスは異なります。詳細はお問い合わせください。

\*3: Application Programming Interface の略。システム間接続を容易に可能とするインタフェース。外部のアプリケーションやサービスから、機能やデータベースを呼び出して利用できるようになります。

\*4: Software Development Kit の略。特定のソフトウェアパッケージ、オペレーティングシステムなどのためのアプリケーションを作成するためにソフトウェア技術者が使用する開発ツールのセットです。今後、具体的には、「NTT コミュニケーションズ API ゲートウェイ」で、OSS (Open Source Software) 提供されている、各種言語の REST client ライブラリを事前検証し、「NTT コミュニケーションズ API ゲートウェイ デベロッパーポータル」にて公開予定です。

# [別紙] 利用シーン①

## NTT Com Business Process API※に対するアクセスをコントロールする

NTT Comの「Arcstar Universal One」サービスを利用しているA社が、各部門の業務に関連がある情報にだけアクセスできるように設定する場合

### <お客さまのニーズと設定例>

お客さま(A社)のニーズ		設定例					
部門	ニーズ	グループ	ユーザ	SourceIP	API Proxy	Verb	Resource
情報システム	本社情報システム部門からArcstar Universal Oneサービスの新規申込、変更、取消を特定のVPN番号(V12345678)のみに絞って実施したい	情報システムG	ユーザA ユーザB ユーザC	10.0.0.1/32 (お客さま本社IPアドレス例)	サービス オーダーAPI	GET(参照) POST(作成) PUT(更新) DELETE(削除)	serviceName: uno  VPN No: V12345678
保守	保守拠点から特定のプロジェクトで利用しているArcstar Universal Oneサービス(V87654321)のメンテナンス情報を参照し、問い合わせチケットを作成・参照・更新したい	保守G	ユーザG ユーザH ユーザI	10.0.0.2/32 (お客さま保守拠点のIPアドレス例1)	契約情報API	GET(参照)	serviceName: uno  VPN No: V87654321
				10.0.0.3/32 (お客さま保守拠点のIPアドレス例2)	チケットAPI	GET(参照) POST(作成) PUT(更新)	serviceName: uno

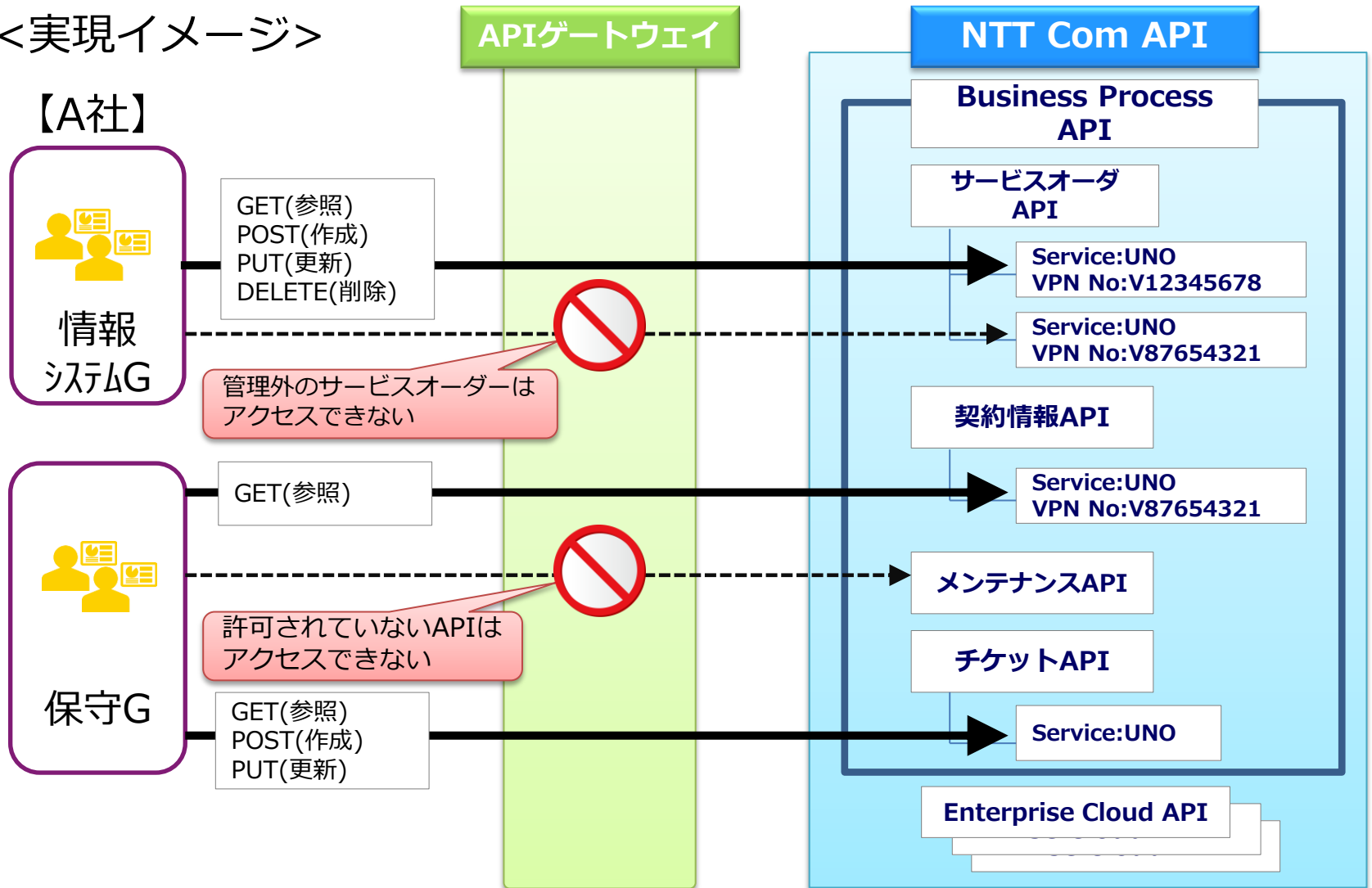
※NTT Com各種サービスの契約、サービスオーダー、故障、メンテナンス情報を提供するAPI



Global ICT Partner  
Innovative. Reliable. Seamless.

# [別紙] 利用シーン①

<実現イメージ>



## [別紙] 利用シーン②

### NTT Com Enterprise CloudのVM\*操作をコントロールする

NTT Comの「Enterprise Cloud」サービスを利用しているA社が、各部門の業務に関連があるVMの操作だけ許可するように設定する場合

#### <お客さまのニーズと設定例>

お客さま(A社)のニーズ		設定例					
部門	ニーズ	グループ	ユーザ	SourceIP	API Proxy	Verb	Resource
開発	いつでもどこでもEnterprise CloudのVMを操作して、システム開発ができるようにしたい	開発G	ユーザF	0.0.0.0/0 (Anywhere)	Enterprise Cloud API	*(全て)	BasePath: *(全て)
保守	システムのメンテナンスのため、保守拠点から特定のVMに関する起動、停止を操作したい	保守G	ユーザG ユーザH ユーザI	10.0.0.2/32 (お客さま保守拠点のIPアドレス例1)  10.0.0.3/32 (お客さま保守拠点のIPアドレス例2)	Enterprise Cloud API	*(全て)	BasePath: /vApp/{id}/power/ action/powerOn /vApp/{id}/power/ action/powerOff  vAPPID:BBBBBB

\*Virtual Machine

# [別紙] 利用シーン②

<実現イメージ>

